

令和2年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

国際課

1 施設の概要等

施設名	広島県立広島国際協力センター		
所在地	東広島市鏡山三丁目3-1		
設置目的	国際人材の養成, 県民の国際化及び国際協力の推進		
施設・設備	大研修室(収容人数 60 名)1 室, 中研修室(収容人数 24 名)5 室, 小研修室(収容人数 12 名)6 室, キッチン交流室(収容人数 24 名)1 室, 宿泊室 73 室, 体育館, NGO交流室, 情報センター・図書室		
指定管理者	4 期目	H31. 4. 1～R6. 3. 31	(公財)ひろしま国際センター
	3 期目	H26. 4. 1～H31. 3. 31	(公財)ひろしま国際センター
	2 期目	H21. 4. 1～H26. 3. 31	(公財)ひろしま国際センター(H25. 4. 1～公財)
	1 期目	H18. 4. 1～H21. 3. 31	(財)ひろしま国際センター

2 施設利用状況

利用状況	年度		目標値 [事業計画]	研修受講者数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	利用状況	4 期	R2	1, 200 人	212 人	△726 人
R1			1, 200 人	938 人	△239 人	△262 人 (78. 2%)
3 期平均 H26～H30		1, 080 人	1, 177 人	389 人	97 人 (109. 0%)	
2 期平均 H21～H25		1, 000 人	788 人	△130 人	△212 人 (78. 8%)	
1 期平均 H18～H20		—	918 人	△22 人	—	
H17 (導入前)		—	940 人	—	—	
増減理由	新型コロナウイルス感染症の影響による研修受講者数の減					

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	研修受講者等へのアンケート	研修受講者等・延べ 618 人
	【主な意見】	【その対応状況】
	研修については概ね満足しているとの回答であったが、オンライン研修は、質疑やディスカッションの時間があると良いとの意見があった。	オンライン研修において、ビデオ配信型と同時双方向型の最適な組み合わせ等を検討し、利用者の満足度を更に高められるよう研修内容等の充実を図っている。

4 県の業務点検等の状況

項目		実績	備考
報告書	年度	○	事業報告書
	月報	○	施設利用状況
	日報 (必要随時)	○	施設内での事故等
管理運営会議 (2 回)	【特記事項等】 施設の管理・運営の業務においては、日々の施設運営を踏まえながら、長期的な観点から効率的かつ適切に施設の維持保全を行っていく必要がある。また、感染症対策の徹底を継続する必要がある。		
現地調査 (概ね月 1 回)	【指定管理者の意見】 施設の効率的かつ適切な維持管理及び適切な感染症対策を行っていくために、日常の施設管理に当たって県と密接な連携を取っていきたい。 【県の対応】 ・ 県管理研修棟の外壁改修工事を行った。 ・ 真空遮断器, 保護継電器の更新工事を行った。 ・ 冷温水発生器 (2 号機) のオーバーホールを行った。		

5 県委託料の状況

(単位：千円)

県委託料 (決算額)	年度		金額	対前年度増減	料金 収入 (決算額)	年度		金額	対前年度増減
	4期	R2	174,315	8,115		4期	R2	7,087	△14,224
		R1	166,200	677			R1	21,311	△272
	3期平均H26～H30		165,523	1,850		3期平均H26～H30		21,583	△117
	2期平均H21～H25		163,673	△13,262		2期平均H21～H25		21,700	△1,720
	1期平均H18～H20		176,935	△16,398		1期平均H18～H20		23,420	△2,410
	H17(導入前)		193,333	—		H17(導入前)		25,830	—

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		R2 決算額	R1 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	174,315	166,200	8,115	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う県からの委託料増
		料金収入	7,087	21,311	△14,224	利用料金制(※1) 宿泊者減に伴う収入の減
		その他収入	271	394	△123	講師派遣謝金収入の減等
		計(A)	181,673	187,905	△6,232	
	支出	人件費	82,053	85,644	△3,591	嘱託員の減等
		光熱水費	10,921	12,925	△2,004	電気使用量の減等
		設備等保守点検費 清掃・警備費等	61,022	56,083	4,939	設備更新委託経費の増等
施設維持修繕費		5,786	5,402	384	小規模修繕の増	
事務局費		20,456	24,283	△3,827	消耗備品購入の減等	
その他		254	258	△4	銀行振込手数料の増	
	計(B)	180,492	184,595	△4,103		
	収支①(A-B)	1,181	3,310	△2,129		
自主事業 (※2)	収入(C)	12,522	29,814	△17,292	研修受講者数の減	
	支出(D)	10,605	24,880	△14,275		
	収支②(C-D)	1,917	4,934	△3,017		
合計収支(①+②)		3,098	8,244	△5,146		

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。指定管理者の自主的な経営努力を発揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画, 主な取組, 新たな取組など)	県の評価
施設の 効用 発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	受託事業を着実に実施するとともに、コロナ禍におけるオンライン研修の実施に取り組み、施設の設置目的に沿った業務の遂行に努めた。	感染症対策を考慮した対面研修に加え、オンライン研修を行うなど、施設の設置目的に沿った業務遂行が図られている。
	○業務の実施による、県民サービスの向上	県民の国際化を推進するため、国際協力センターを拠点に、感染症対策に留意しつつ地域交流事業を実施した。	感染症対策を十分行ったうえで、地域交流事業を実施している。
	○業務の実施による、施設の利用促進	コロナ禍による海外からの入国制限により、来日研修が中止となる中、県内在住の留学生向け研修については、感染防止対策を取りながら、対面での集合研修を実施した。	研修受講者数などの利用実績が減少しており、コロナ禍および感染終息後の利用促進に向けた取組の強化が必要である。
	○施設の維持管理	施設利用者が安心、安全に活用できるよう、感染症対策に留意しつつ、設備管理、フロント、警備、清掃等の各業務の適切な実施に努めた。	感染症対策を含め、適切に維持管理がなされている。
管理の 人的 物的 基礎	○組織体制の見直し	コロナ禍の研修、イベントの減少に対応するため人員配置の見直しを行った。	状況に応じた効率的な業務の執行に努めている。
	○効率的な業務運営	情報セキュリティに関する国際規格ISO27001を運用し、情報セキュリティの維持・強化に努めた。	組織内の情報セキュリティ管理の仕組みを整えており、情報セキュリティを維持・強化するための取組が継続してなされている。
	○収支の適正	新型コロナウイルス感染症の影響で利用料金収入が激減したが、県からの減収補填並びに人員配置の見直しにより、収支の均衡を図った。	コロナの影響で収入が減少し、事業も縮小する中、事業量に応じた適正な人員配置を行うなど、適切な運用を行っている。
総括		<p>新型コロナウイルス感染防止対策を行いつつ、施設の設置目的に沿った安心・安全な施設管理に取り組んでいる。</p> <p>また、オンライン研修をはじめとする感染症対策を考慮した業務運営に取り組んでいる。</p>	<p>施設の効用発揮の面では、感染防止対策の徹底やオンライン手法の導入などにより研修機会を確保している。</p> <p>また、管理運営の面では、事業量に応じた適正な人員配置等により収支の適正化に努めている。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した業務運営が必要である。</p>

8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
<p>短期的な対応 (令和3年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修、イベントの需要が大きく落ち込んでおり、オンラインによる研修など顧客ニーズに沿った柔軟な研修に取り組む。 ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により自主事業研修の受け入れが中止となった国内外の大学等を中心に営業活動を積極的に展開する。 ○ 計画されている外壁改修工事などの大規模修繕工事について、現場調整、協議等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した事業実施と営業活動について、指定管理者への働きかけを強化する。 ○ 長期保全計画に基づいて、今年度予定されている外壁改修工事などの大規模修繕工事を着実に実施する。
<p>中期的な対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ後には、コロナ禍における研修実施のノウハウも生かしつつ、より効果的、効率的な研修に取り組む。 ○ 県の国際化施策の方向性を踏まえながら、施設の設置目的を達成するため、研修員のニーズ等に応じた研修プログラム・内容を設定し、内容や成果等について検証、改善を図りつつ、研修の目的が十分達成されるよう質の高い研修の提供に取り組む。 ○ 研修、文化体験・地域交流を通じて県民が直接外国人と交流する機会や外国人研修員等が日本の文化等を体験する機会を創出し、県民の国際化や国際相互理解を促進する。 ○ 広島県内各市町の日本語教育を支援する「人材育成・教材・リソース等の開発及び実践研究拠点」として、総括コーディネーターを配置しつつ、地域日本語教育コーディネーターの育成を実施し、外国人が孤立することなく、県民の一員として地域に溶け込み、安心して生活できる環境を整備する。 ○ 長期的な施設保全の観点から、施設の適切な維持保全に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ後の顧客ニーズを考慮した、より効果的、効率的な事業を行うよう、指定管理者に働きかける。 ○ 県の施策である外国人との共生推進や留学生の受入・定着等の取組を通じて指定管理者と連携していく。 ○ 県内市町の日本語教育関連リソースを有機的に結び付けるとともに、適宜、人材・教材等の面で、市町をサポートができるよう指定管理者の体制強化を図りながら、県全体としての日本語教育の拡充を図る。 ○ 長期的な施設保全の観点から、長期保全計画に基づく大規模修繕工事を計画的に実施する。